

電子メールでの保育所健康管理

渡部 礼二

わたなべ小児科医院

はじめに

「保育所保育指針」で、保育所での嘱託医は園児の保育健康面の相談・助言の任を負っているが、日々の疾病状況はほとんど把握できていないのが実情であり、少なくとも以前の私はそうであった。

電子メールと汎用統計ソフトである Excel（マイクロソフト）のファイルリンク機能、関数計算機能とグラフ機能を利用して、毎日の園児の健康状態を経時的グラフとして把握できるシステムを

構築し、2年間保育所の疾病状態をモニターし、保育所に助言等をしている。その概略を紹介する。

方法

1) 保育所側

入力ファイル（図1）の日付は、連続性を保つために休祭日を除いた表である。

事故欠を除いたその日のクラスの人数（病欠を含む）を入力する。クラス分けされた各個人のセルに園児の健康状況を入力する。咳・鼻汁等の呼

	E	F	G	H	I	J
5		12/15	12/16	12/17	12/18	12/19
6		月	火	水	木	金
7	星1組	24	24	24	23	24
8	○本○			YG	Yg	
9	○多○咲					
10	○納○基	中耳炎	中耳炎	中耳炎	中耳炎	中耳炎
11	○村○慧					
12	○本○音					
13	○桃○					yg
14	○谷○紗	目やに	目やに	目やに		
15	○政○	s		YGN	YGNS	YGNS
16	○高○菜					
17	○島○至					
18	○未○	s(鼻汁)		yG	Yg	YG
19	○野○衣					
20	○村○桃					
21	○河○歩			s		
22	○次○典					vN

図1 入力ファイル

My Technique : E-mail Use for Health Management in Child Care Centers.

Reiji Watanabe

著者連絡先：渡部礼二

わたなべ小児科医院

〒921-8042 金沢市泉本町 5 5-1

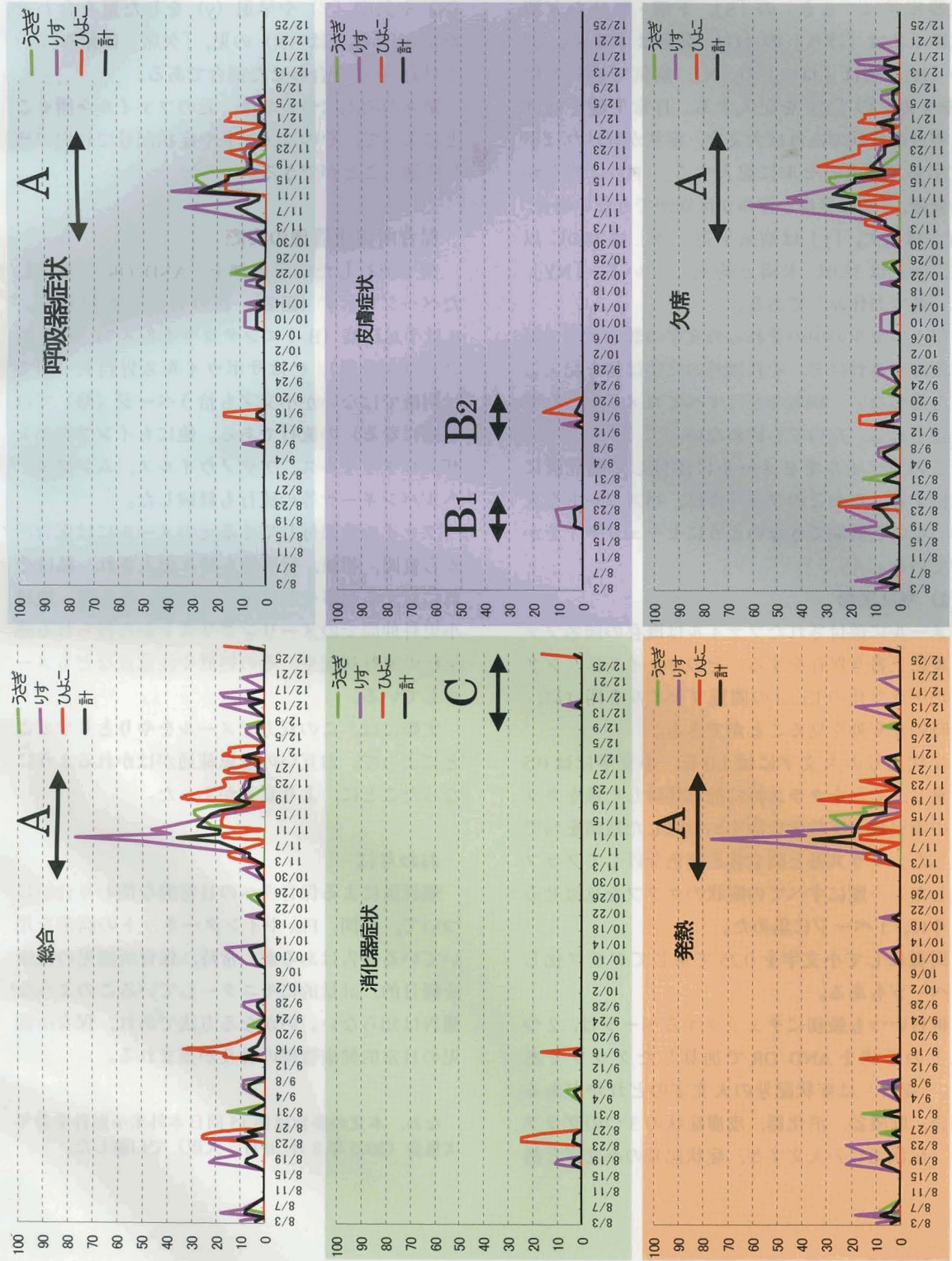


図2 園で流行した疾患の例

吸器症状は「せき」の「S」、下痢・嘔吐など消化器症状は「げり」の「G」、発疹は「はっしん」の「H」、熱は「ねつ」の「N」、病気で欠席は「やすみ」の「Y」を記入する。日常生活を妨げる程度の症状であれば大文字、症状が軽ければ小文字を各個人のセルに記入する。「H」は明らかな発疹、「h」は発疹か湿疹か区別ができない場合、「Y」は病欠、「y」は病気早退、「N」は38.0℃以上、「n」は38.0℃未満と約束している。「NY」は「熱でお休み」である。

個々のセルの中のそれらの文字の数をクラス毎に集計するわけで、それ以外の文字は何を記入しても構わない。病名などはすべてコメントとして伝達される。空白でも構わない。

このファイルをEメールに添付して囑託医に送信する。なおこのファイルは、パスワードを入力しないと展開できないようにセキュリティをかけている。

2) 囑託医側

メールに添付されたファイルは既存の同名ファイルに上書き保存をする。そのファイルにリンクしたグラフ化のExcelの閲覧ファイルを開けば、経時的な変動を見ることができる。

症状記号の大文字には1.0を、小文字には0.5を乗じ、それをクラス毎に加算集計した数をクラスの園児数(事故欠を除く)で除した数値を%で表した。クラス毎と園全体とに色分けしてグラフ化した。一度にすべての症状のグラフを見渡せるように、1ページに集めた。

同様に小文字を0.25で乗じてグラフ化したページもある。

毎日いつも最初にチェックするページは、2つ以上の症状をAND ORで加算したグラフである。「総合」は症状記号の大文字のどれかがある割合、呼吸器、消化器、皮膚症状の3つのグラフは、症状記号の大文字と、症状記号の小文字と熱

(N)や欠席(Y)や早退(y)をした児を合わせた割合、「熱」は(N)の児、「欠席」は休み(Y)と早退(y)を合わせた割合である。

個々の園児については、元のファイルを開くことによって、そのコメントや症状記号で経過の概略を知ることができる。

保育所健康管理の実際

園で流行した疾患の例を、AND ORで加算したページで示す(図2)。図のAはRSV感染症、Bは手足口病(B₁:エンテロウイルス71、B₂:エコー9が分離)、Cはサポウイルス胃腸炎(図では明確ではないが小文字も拾うページ(略)では明確になる)の流行である。他にもインフルエンザ、ロタウイルス、アデノウイルス、ムンプス、ヘルパンギーナ等の流行も経験した。

ファイルを添付してくる元のメールには保育所から質問、相談、行事等も時々記入され、私はそれに対する返事や助言をしている。さらに、地域小児科仲間でのメーリングリストから得られる感染症の流行状況や、その処置や注意点などもメールしている。

実際には、この双方でメールをやりとりすることによって、お互いの意思疎通がはかれるようになったことに、より意義があった。

おわりに

囑託医による保育所への日常的な関わり合いについて、訪問、Faxやインターネットの画像を用いている報告はあるが、常時、保育所園児の健康を経目的、計量的にモニターしているこのような報告は知らない。いかなる方法であれ、保育所園児の日常的健康管理の普及が望まれる。

なお、本文の要旨は第15回日本外来小児科学会年次集会(2005年8月20日、大阪)で講演した。